平成２８年度第１回宗像市幼児教育審議会

議事録（要点筆記）

期　日：　平成２８年7月２６日（火）
時　間：　１９：００～２１：００
会　場：　宗像市役所北館 103A 会議室

審議会委員					
船越　美穂	○	河本　博子	○	納富　恵子	○
新塘　元哉	○	元岡　充代	○	横川　哲朗	○
髙杉　洋史	○	幸　政恵	○	綱脇　陽子	○
檜山　理恵	欠	安藤　周治	○	髙松　美香	○

事務局			
清水　比呂之	村上　治彦	薄　伸也	早川　靖彦
橘　正代	松尾　恵実		

【事前配布資料】
・宗像市幼児教育審議会委員名簿
・宗像市幼児教育審議会規則
・平成２８年度幼児教育事業一覧
・宗像市幼児教育振興プログラム（平成２４年度～平成２８年度）
・宗像市幼児教育振興プログラム（ダイジェスト版）
・宗像市幼児教育振興プログラム進捗状況
・スムーズな小学校入学に向けて（家庭向けパンフレット）
・保幼小接続期における学びのめやす（保育士・教員向けパンフレット）
・保幼小連携だより
・平成２８年度保育所・幼稚園・認定こども園子育て支援地域開放事業パンフレット
・子育て支援センターふらこっこパンフレット
・子育てサロン紹介一覧
【当日配布資料】
・第三期　宗像市幼児教育振興プログラム策定に向けて
・国や県、宗像市の幼児教育に関係する法律や条例・施策等
・平成２６年度　幼児教育実態調査
・幼児教育振興プログラム（改訂版）の概要
・幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）
・幼児教育部会取りまとめ（案）文部科学省
・社会保障審議会児童部会保育専門委員会　中間まとめ骨子
・平成２８年度　宗像市幼児教育振興プログラム策定に関するスケジュール（案）

1　挨拶（省略）
2　委嘱状の交付
3　委員、事務局の紹介
4　会長、副会長選出(船越会長、髙杉副会長)
5　第三期宗像市幼児教育振興プログラムの策定について（諮問）
6　議事録について
作成方法
①　全文筆記　②発言者の発言ごとの要点筆記　③会議内容の要点筆記のうち、③の要点筆記で行う旨、確認された。

7　宗像市幼児教育振興プログラムの策定について

≪事務局からの説明≫
（１）宗像市幼児教育振興プログラムの概略について

・幼児教育振興プログラムは、本市の幼児教育の指針となる。
・家庭や地域社会を含む０歳から小学校就学前の幼児教育に関わる保育所・幼稚園等すべての機関を対象とした総合的な幼児教育の方向を指し示している。
・平成１７年度に宗像市が策定した次世代育成支援対策行動計画に基づき、文部科学省が平成１８年に出した「幼児教育振興アクションプログラム」を受けて、宗像市独自で作成している。
・当市の幼児教育振興プログラムでは、この１０年間６つの施策を基本として、具体的な施策を進めて成果を上げてきた。
・近年の子どもを取り巻く状況は刻々と変化しており、５年ごとにプログラムの見直しをしている。
・第三期プログラムでは、これまでの成果を生かしつつ、子どもたちの未来を輝くものにするプログラムにしていきたい。

（２）これまでの成果と課題について
【第一期】
・組織・しくみづくりができた。
・保育所、幼稚園の行政窓口の一元化を行った。
・保幼連絡会、保幼小連絡会など様々な組織を立ち上げ、それぞれの機関の連携を行った。
・市で指導要録・保育要録の様式を統一した。
・保育士・教員の質を向上するため、様々な分野の専門研修を行った。
・入園していない子へのアプローチとして、子育て地域開放事業を開始。
・発達支援センターを開設し、園との連携がさらに強化できた。

【第二期】

・小学校の入学説明会時に１年生の体験入学を全小学校で実施。

・小学校教諭も参加しての保育参観の実施。参観後の意見交換の場の設定ができた。

・小学校参観については、食育という観点で試食と給食参観を行った。来年度は小学校での授業参観の実現を目指している。

・就学前の子どもたちに身につけてほしいことについて、「スムーズな小学校入学に向けて」（家庭向け）や「学びのめやす」（保育士・教員向け）のパンフレットを作成。

【課題】

・パンフレットを作ったら終わりではなく、継続して啓発で使っていくこと。

・繰り返し研修会を行い、回数を重ねることで多くの先生に参加していただき幼児教育の方向性をつかんでいくこと。

（３）審議スケジュールについて

・今年度の審議会は５回を予定している。

・策定前に市民に向けてパブリックコメントを取る予定。（時期は、１２月から１月の１ヶ月程度）原案を１１月までに作成し、１１月の教育委員会にかける。また、パブリックコメント後、今回の諮問に対して教育委員会に答申を出すことになる。

・原案作りに７月、９月、１０月、１１月の４回、答申に向けて２月に１回の会議を予定している。１１月は教育委員会の日程が２２日であるため、その１０日前までには仕上げたい。

・審議会の日程調整の基準として、できるだけ参加者が多い日で、会長・副会長がどちらかいる日とさせていただきたい。

⇒審議委員から了承を得る。

（４）第三期プログラムの方向性について

・親育ちのめやすになるような家庭教育支援を中心におく必要を感じる。

・保幼小連携についてもさらに進めていく必要がある。

・近年、子どもに関係する法律等の改訂、施行がされてきた。第三期の幼児教育振興プログラムにも必要なものは盛り込んでいく。

・内容については、今まで積み上げてきたことをさらに進めて、プログラムに修正を加えていく。平成２４年施行した子ども基本条例をプログラムに盛り込む。

・第三期のプログラムについては、保幼小接続期のカリキュラム作成、乳幼児期に必要な体験についての家庭教育啓発パンフレットの作成、相談支援体制の確立なども考えている。

・基本的に６つの施策は変えないということで考えている。

・第三期プログラムに取り入れてほしいこと、調べてほしいこと、具体的な内容についてなど様々な意見をいただきたい。

≪質疑≫

◇全県的・全国的にみても宗像市の幼児教育は進んでいるとのことだが、具体的にどのあたりが進んでいるのか。

⇒①資料「平成２６年度幼児教育実態調査」（９ページ）幼児教育に関する政策プログラム策定状況において、策定済みとの回答は幼稚園設置市町村で 22.1%、幼稚園未設置市町村で 4.2%であるのに対し、当市では、この１０年間プログラムを進めてきた。

② 第二期の成果として、保育所・幼稚園・小学校で共に合同研修会を行い、保育参観を中心とした研修を実施しているが、全国で見ると市町村においては 10%程度の実施状況である。

③ 他の市町村から幼児教育事業についての質問や問い合わせを受けている。以上の３点から進んでいると考えている。

◇「宗像市幼児教育振興プログラム」（１ページ　第１趣旨　第３段落の）「しかし、近年の社会状況は、全国的に少子化、核家族化などの進行により、家庭の教育力が低下するなど、子どもを取り巻く環境は大きく変わってきている。」とあるが、これは全国的なことか。宗像市固有の問題として考えてよいか。

⇒全国的でもあり、また宗像市もこの傾向にある。

◇ここ数年、毎年８００～８５０人くらいの赤ちゃんが宗像市で生まれているとのことだが、宗像市の状況も少子化の傾向があるのか。

⇒少し増えている状況はある。

◇待機児童については、増えているか。

⇒平成２７年度４月１日現在は４人、平成２８年度４月１日現在においては８人待機児童が出ている。

◇子ども基本条例にある３つの柱のうち「子どもにやさしいまち」はどんなものか。

⇒まちづくりのハードを含めたところの子どもにやさしいまちづくりということである。

◇①（宗像市幼児教育振興プログラム３ページの第４）育てたい幼児像に「環境を大切にする子ども」とあるが、具体的に何か取組をしているか。環境と書かれているが、共通目標のところで見えてこない。市としての環境教育はあるのか。取組がなければ、地域を知り、地域の誇りを持って環境を大切にする子を目指

した施策はあるのか。

◇②宗像市には自然がたくさんあるので、市で子どもに対し、環境の中で生かされる経験や自然の中での体験などもっと広げたら良いのでは。

⇒子ども基本条例や居場所づくりを中心に、宗像市ではいろいろな事業活動を行っている。プレーパークなど自然の中で体験学習を行い、遊びを中心に学んでいくようにしている。幼児期に、新しいプログラムでどのように具体的にアプローチをしていくか、どのように構築していくかの検討が必要である。

≪意見≫

◇新しい「認定こども園」の開設、国の制度の改訂で複雑なシステムとなった。また、教育要領改訂に伴い、インクルーシブ教育、４月から障害者差別解消法施行など、幼児教育と小学校にとって激変の時代が来た。

◇親が幼児教育の考え方を理解し、自分の生活に織り込み、習慣にすると良い。言葉が大事なので、毎日本を読むと良い。すると、毎日本を読むことが習慣となり、そのことにより学習が容易になる。

◇貧困、ひとり親家庭など多様な家庭がある。子どもの背景は様々なので、新たな問題を抱えながら子育てしているいろいろな家庭への視点を入れると良い。

◇宗像市では、玄海地域など祖父母世帯と住んでいる世帯があったり、島があったり、都会が失っている地域性があるところを趣旨に入れた方が良いのでは。

◇子ども基本条例の「子どもにやさしいまち」の方針や施策、各家庭で子どもに対する考え方が作れたら良いと思う。現在、家庭教育の機能がほとんど機能しなくなっている現実がある。

◇幼稚園、保育所と家庭によって状況が違う。それらを含んだ形で普遍的に大切なところをパンフレットにしていくと良い。

◇子育て支援センターに来られる母親のほとんどは、子どもが１歳になると復職する。また、キャリアを持つ母親、毎日試行錯誤して子育てをしている母親も多い。子どものことを勉強したいと、本当に一生懸命に子育てをしている。

　子育て支援センターでは、食育など啓発講座をいろいろと行っている。子育てについて自信を持って母親ができていない現状がある。この時期、父親は働き盛りであり、母親が２４時間一人で子育てをがんばっている。些細なことから深刻なことまでいろいろな相談がある。子どもと密に過ごせる時間を大事にしてもらいたい。

◇保育所に子どもを預ける親は、働きながら子育てをしている。子どもは、ほとんどの時間を保育園で過ごしている。保育所へ子どもを預けている親は、要求や要望が強い。親ができないことが保育所への要望となり、要望が苦情にもなる。

　また、子どもが０歳から３歳までの間、親はとても忙しいが、子育てについて覚悟してがんばってもらいたいと思う。親の保育所での子育てへの関わり方のバランスがなかなか難しい。

◇子どもを育てるとき、幼児期に必要な体験を示す保護者が安心して子を育てることができる環境があると良い。

◇産後うつについての問題として、母だけが子育てするというイメージが強い。母親を支える場、母親が子育てのことで相談できる場所が必要である。また、父親の子育て参加を促すことが、母親のうつ的なものを改善できることにつながるのではないか。そういうことを盛り込んでいけると良い。

◇保護者は、幼児期に子どもとともに体験すると良い。親子でコミュニケーションをとったり、話を聞いたり、子どものためになる知識を得たりということは乳幼児期の親にとって必要なことである。父親、母親、祖父母、きょうだいなど家族が参加できる場づくり、宗像の自然を生かした経験ができる場づくりがあると良い。子どもが小さい時期、宗像にいろんな人がいること、自然があるという経験をさせたい。宗像を大好きな子どもたちであってほしい。

◇宗像市では発達支援センターがあり、障害のある幼児の早期発見、学齢期の子への支援が進んでいる。障害児教育、インクルーシブ教育といろんな手立てが進んできている。今までのシステムとは違う障害がある子への支援が必要になってきていると同時に、様々な人が社会に参画できるしくみづくりを積極的に行うと良い。環境が柔軟であれば、参加が促される。多様な子がいるという考え方を入れた上で、家庭教育を進めていくと良い。

◇宗像市はユニバーサルデザインを意識してまちづくりをしている。今後は、人の心のユニバーサルデザイン化を進めていく。新しいテクノロジーを活用してサポートしていく時代になっている。そういうことを取り入れていくと良いと思う。

◇第三期プログラムでは、保育所に子どもを預けている保護者への支援や、親同士のつながりを学びながらつくっていけたら良いと思う。

◇大人自身が自立して関われていくことが大事。「宗像市幼児教育振興プログラム」（９ページ（２）地域社会の教育力の再生・向上②）子どもの居場所づくりの推進とあるが、子どもだけでなく、子どもを育てる大人の居場所づくりもつくれたら良

い。

◇第一期でシステムはつくった、第二期で保幼小を進めた。第三期では、本当に子どもはどう育っているのか、親にどんな課題があるのかをもう一度洗い出しても良いのではと感じた。

◇何を目指した幼児教育なのか。子どもの時は完璧な良い子でなくて良い。子ども時代は良い大人になるための場である。子どもの最善の利益というのは口で言うことは簡単だが、いろんな考え方がある。大人は子どもが間違っていると思った時は、指導をするのではなく、まずは子どもに寄り添う。大人の言うことを聞く子ではなく、子どもが自分で道をつくっていく関わりをしたい。

◇大人側が子どもの声、子の発信を聞き取る力が問われている。

◇親も勉強させてもらう場をつくっていただきたい。親は自分たちの子育てが合っているのかわかっていない状況である。親が勉強させてもらえる場、一緒に共感しあえる場があるとすごく良いと思う。

８　その他

次回開催は平成２８年９月（日にちは後日調整）に決定